

令和4年度第2回 湯沢町地域公共交通活性化協議会 次第

日時：令和4年7月25日（月）10：00～

会場：湯沢町役場 3階大会議室

1. あいさつ

2. 議事

議題1 湯沢町の現状の交通環境について

議題2 地域公共交通計画策定に向けた考え方について

議題3 実態アンケート調査について

3. その他

令和4年度 第2回湯沢町地域公共交通活性化協議会出席者名簿

No	所属	役職	氏名	備考
1	湯沢町	町長	たむら まさゆき 田村 正幸	会長
2	湯沢町 産業観光部 観光商工課	部長兼課長	なぐも つよし 南雲 剛	(代理出席) 観光商工係主任 酒井真紀子
3	湯沢町 健康福祉部 福祉介護課	課長	なぐも しげゆき 南雲 重幸	
4	湯沢町 子育て教育部 教育課	部長兼課長	ふるかわ けんいち 古川 健一	
5	湯沢町 子育て教育部 子育て支援課	課長	まるやま よしかず 丸山 由和	
6	新潟県 交通政策局 交通政策課	課長	さいとう まさゆき 齋藤 昌幸	(代理出席) 政策企画員 古市寛之
7	新潟県 南魚沼地域振興局 企画振興部	参事	さとう ひろゆき 佐藤 浩幸	
8	東日本旅客鉄道株式会社 越後湯沢駅	駅長	ちよ たつひこ 千代 達彦	
9	北越急行株式会社 運輸部	部長	くわばら のぶゆき 桑原 信之	
10	南越後観光バス株式会社	取締役 乗合部長	かわかみ よういち 川上 洋一	(代理出席) 代表取締役社長 塩入誠司
11	株式会社エンゼル観光 本社営業所	所長	たかはし てつや 高橋 哲也	欠
12	湯沢町タクシー協会	ゆざわ魚沼タクシー(株) 営業部長	ふかい しずお 深井 静男	
13	国土交通省 北陸地方整備局 長岡国道事務所 計画課	課長	たきざわ ひでのり 瀧澤 秀則	欠
14	新潟県 南魚沼地域振興局 地域整備部 計画調整課	課長	なかがわ しゅんいち 中川 俊一	
15	湯沢町 地域整備部 建設課	課長	みやた あきら 宮田 玲	
16	国土交通省 北陸信越運輸局 交通政策部 交通企画課	課長	たままき ふみなり 玉巻 史成	(代理出席) 課長補佐 伊藤健一
17	国土交通省 北陸信越運輸局 新潟運輸支局	首席運輸企画専門官	しまや たかゆき 島谷 尚之	
18	国立大学法人長岡技術科学大学 都市交通研究室	教授	さの かずし 佐野 可寸志	副会長
19	大字三国代表町内会長	浅貝町内会長	わたぬき とみお 綿貫 富雄	欠
20	大字三俣代表町内会長	三俣1町内会長	たかはし かずお 高橋 和男	欠
21	大字神立代表町内会長	栄町町内会長	まつやま まさひろ 松山 正博	
22	大字土樽代表町内会長	滝ノ又町内会長	なぐも えつお 南雲 悦夫	欠
23	大字湯沢代表町内会長	湯元町内会長	やまもと しげまさ 山本 茂正	
24	南魚沼警察署 交通課	課長	たかはし ますえ 高橋 益栄	欠
25	南越後観光バス株式会社 労働組合	執行委員長	ありま しんご 有馬 真悟	
26	一般社団法人 湯沢町観光まちづくり機構	代表理事	おか あつ お 岡 淳朗	
27	社会福祉法人 湯沢町社会福祉協議会	事務局次長	すみや ひろし 角谷 洋	
28	湯沢町商工会	事務局長	なぐも けんいち 南雲 健一	(代理出席) 室長 梅田朝夫
事務局	湯沢町 総務部	部長	たむら まさかず 田村 雅和	
事務局	湯沢町 総務部 企画政策課	課長	とみざわ まさふみ 富沢 雅文	
事務局	湯沢町 総務部 企画政策課 企画係	係長	ひらが だいすけ 平賀 大裕	
事務局	湯沢町 総務部 企画政策課 企画係	主事	やまざき りょうた 山崎 涼太	
事務局	株式会社ドーコン	地域活性化起業人	おみの ともり 小美野 智紀	

令和4年度 第2回 湯沢町地域公共交通活性化協議会 席次表

令和4年7月25日 午前10時00分
湯沢町役場 3F 大会議室

国土交通省北陸信越運輸局
新潟運輸支局首席運輸企画専門官
島谷 尚之 委員

国土交通省北陸信越運輸局
交通政策部交通企画課長
玉巻 史成 委員
(代理) 伊藤 健一

長岡技術科学大学
佐野 可寸志 副会長

湯沢町長
田村 正幸 会長

一般社団法人湯沢町観光まちづくり機構
代表理事
岡 淳朗 委員

社会福祉法人湯沢町社会福祉協議会
事務局次長
角谷 洋 委員

		○	○	○	○	
湯沢町商工会事務局長 南雲 健一 委員 (代理) 梅田 朝夫	○					○ 東日本旅客鉄道株式会社 越後湯沢駅長 千代 達彦 委員
南越後観光バス株式会社 労働組合執行委員長 有馬 真悟 委員	○					○ 北越急行株式会社運輸部長 桑原 信之 委員
大字神立代表町内会長 松山 正博 委員	○					○ 南越後観光バス株式会社 取締役乗合部長 川上 洋一 委員 (代理) 塩入 誠司
大字湯沢代表町内会長 山本 茂正 委員	○					○ 湯沢町タクシー協会 深井 静男 委員
新潟県南魚沼地域振興局 企画振興部参事 佐藤 浩幸 委員	○					○ 新潟県南魚沼地域振興局 地域整備部計画調整課長 中川 俊一 委員
新潟県交通政策局 交通政策課長 齋藤 昌幸 委員 (代理) 古市 寛之	○					○ 湯沢町地域整備部建設課長 宮田 玲 委員
湯沢町子育て教育部 部長兼教育課長 古川 健一 委員	○					○ 湯沢町健康福祉部福祉介護課長 南雲 重幸 委員
湯沢町子育て教育部 子育て支援課長 丸山 由和 委員	○					○ 湯沢町産業観光部 部長兼観光商工課長 南雲 剛 委員 (代理) 酒井 真紀子
		○	○	○	○	

事務局

出入口

第2回 湯沢町地域公共交通会議

令和4年7月25日

湯沢町総務部企画政策課

1 湯沢町の現状の交通環境について

2 地域公共交通計画策定に向けた考え方について

- 「地域公共交通計画」の立案背景
- 「地域公共交通計画」の方針
- 「地域公共交通計画」の考え方
- 「本計画」のタイトル(案)
- 目標設定の考え方
- 今後の進め方

3 実態アンケート調査について

1 湯沢町の現状の交通環境について

1 湯沢町の現状の交通環境について

■公共交通網の状況

- 現在、湯沢町内の鉄道路線としては上越新幹線とJR上越線があり、JR上越線には北越急行ほくほく線が乗り入れています。
- 越後湯沢駅以北では比較的本数が多くなっていますが、町内を結ぶ越後中里・水上までの区間は本数が少なくなっています。

路線名	系統	方面	運行時間帯 (越後湯沢発)	運行時間帯 (越後湯沢着)	運行本数 (平日 上下計)	運行本数 (休日 上下計)	備考
上越新幹線		新潟方面	7:00～23:08	7:21～23:08	20	20	
		東京方面	6:08～22:23	7:23～23:54	28	28	
		ガーラ湯沢方面					冬季のみ運行
JR 上越線	上越線	長岡方面	6:32～21:45	6:57～22:17	28	30	
		水上・越後中里 方面	6:12～21:18	7:09～21:24	20 (水上まで12)	20 (水上まで12)	
	北越急行 ほくほく線直通	直江津方面	8:20～22:30	7:01～21:01	20	24	

1 湯沢町の現状の交通環境について

■公共交通網の状況

- 現在、湯沢町内のバス路線は南越後観光バスにより5つの方面に路線が設定されており運行便数は往復10便前後となっています。
- 最終バスは18時台であり、通勤通学の利用には便利とはいえない状況にあります。
- このうち、湯沢～塩沢～六日町線は新潟県生活交通確保維持改善計画に基づく地域間幹線系統確保維持路線として補助を受けています。



路線	運行時間帯 (越後湯沢駅発 平日)	運行本数 (平日上下計)	運行本数 (休日上下計)	地域間 幹線系統
湯沢～三俣～貝掛温泉～浅貝～西武クリスタル線	5:35～18:40	16	18	
湯沢～塩沢～六日町線	6:52～16:52	16	14○	
湯沢～湯沢学園～中里～土樽線 (旧小学校前～湯沢駅前～湯沢学園)	7:20～18:10 (冬季17:30)	11 1	6	
湯沢～湯沢学園～小坂～谷後～旭原・大源太線	7:10～18:10 (冬季17:30)	13	10	
湯沢～清津峡～津南～ 森宮野原駅線	7:15～17:05	8	8	

運転免許を保有していない高齢者(満65歳以上)や障がい者の方を対象に、全区間で乗車1回につき一律100円で乗車できる高齢者等路線バス運賃助成事業を湯沢町が実施しています。

1 湯沢町の現状の交通環境について

■公共交通網の状況

- 湯沢町内では2社のタクシー事業者があり、町内全域でサービス展開をしています。

事業者名	営業時間	台数	備考
ゆざわ魚沼タクシー	24時間営業	23	ジャンボタクシー4台あり
アサヒタクシー	6:00～25:30	12	

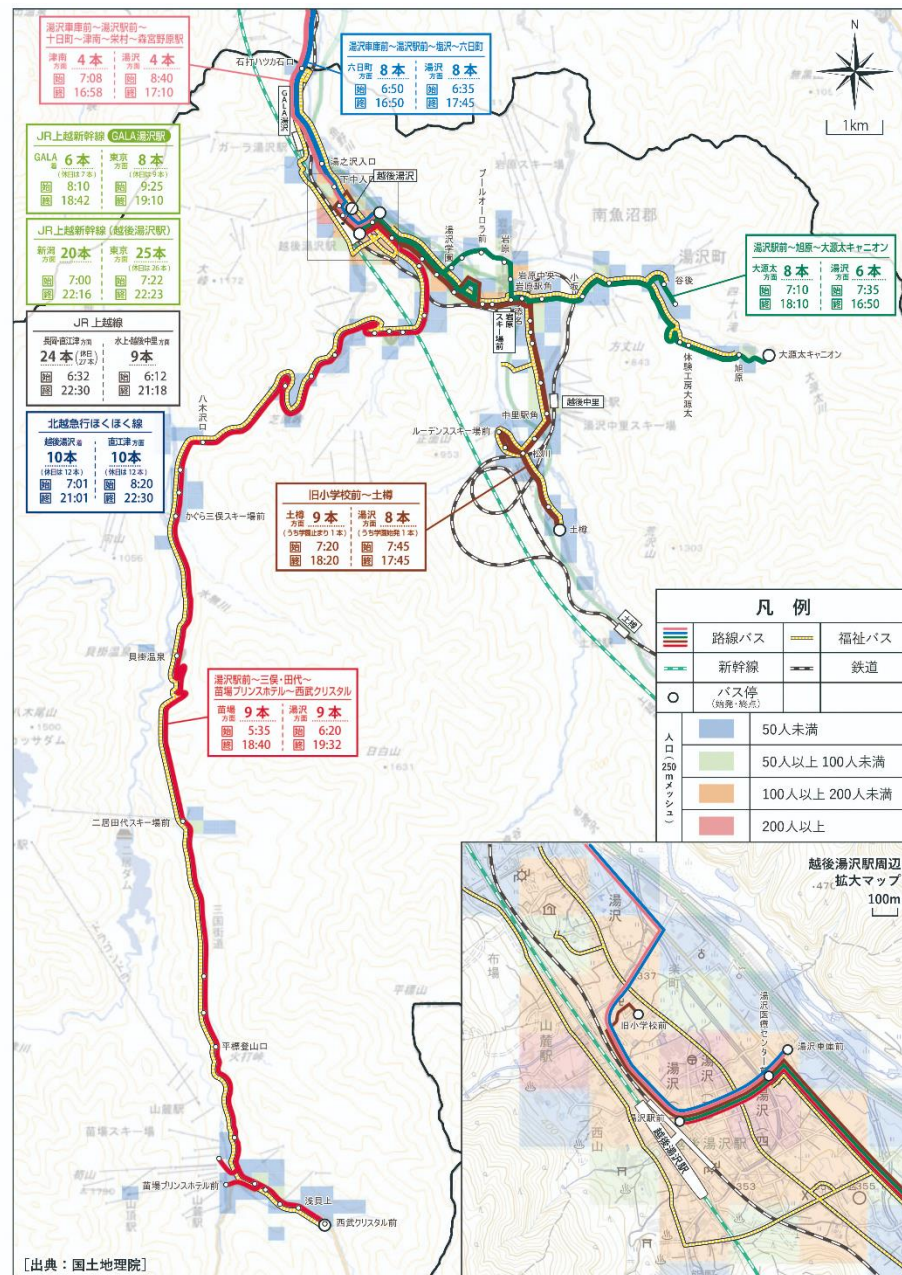
- 湯沢町内の65歳以上の高齢者、障がいのある方を対象として、温泉施設・通院・福祉関係の手続き、交流や買い物などで利用できる福祉バスが週に1回運行されています。

系統	運行曜日	運行区間	運行本数
三国方面	火	(役場車庫)⇔浅貝⇔二居⇔三俣⇔健康増進センター	1
土樽方面	木	(役場車庫)⇔土樽⇔松川⇔中里⇔健康増進センター	1
旭原方面	木	(役場車庫)⇔旭原⇔谷後⇔小坂⇔健康増進センター	1
湯沢方面	火	(役場車庫)⇔楽町⇔湯元⇔役場⇔健康増進センター	1

1 湯沢町の現状の交通環境について

■公共交通網と居住地域の関係

- 町内の人口分布と重ねると、人口が一定程度存する地域にバス路線が設定されています。
- ただし、浅貝や二居、岩原、土樽のほか、越後湯沢駅周辺で鉄道やバス路線のサービスが及ばない地区が一部見られます。



1 湯沢町の現状の交通環境について

■その他のモビリティの状況

- 湯沢町内ではレンタカー会社が5事業者存在し営業を行っています。
- このうち、駅レンタカーでは「セルフ型」というカーシェアリング(※)に近い無人型の営業が行われていますが、都市部や観光地で近年多くみられるカーシェアリングの運営は行われていません。

事業所名	運営事業者	営業時間	備考
ニッポンレンタカー越後湯沢営業所	ニッポンレンタカー新潟	8:00～19:00	
駅レンタカー越後湯沢営業所	JR東日本レンタリース	8:00～19:00	セルフ型サービスあり
トヨタレンタカー越後湯沢駅前店	トヨタレンタリース新潟	9:00～19:00	
Jネットレンタカー越後湯沢駅前店	J-netレンタリース	8:00～20:00	
MOTOCOLレンタカー越後湯沢		9:00～20:00	クラフトカー専門店

※カーシェアリング

レンタカーとは異なりカーシェアリングでは会員登録していれば予約のみで手続きなく利用できます。

短時間(15～120分程度)の利用では安価で利用できるため、都市部においてはマイカーの代わり、地方部においては来訪者の気軽な足として急速に普及が進んでいます。

我が国では法律の制約から欧州でみられる「乗り捨て」(片道利用)は難しくなっており、公共交通のような利用は難しくなっています。

1 湯沢町の現状の交通環境について

■その他のモビリティの状況

- 湯沢町内には観光客向けのシェアサイクル・レンタサイクル(※)が2種類実施されています。

分類	事業名	運営事業者	貸出場所	台数	料金	営業時間
レンタ サイクル	旅チャリ レンタル	雪国観光舎 越後湯沢温泉	雪国観光舎 越後湯沢温泉 雪国の宿 高半 和みのお宿 滝乃湯 HATAGO井仙 音羽屋旅館 ホテル双葉 NASPA ニューオータニ 一望千里 御湯宿 中屋 湯沢ニューオータニホテル 松泉閣 花月 湯沢グランドホテル 本陣さくら亭		2時間 500円 4時間 1,000円 1日 1,500円	6:00～ 19:00
シェア サイクル	ecobike	ecobike社 エンゼル	(貸出返却ポート) エンゼルグランディア越後湯沢 ファミリーマートエンゼルリゾート 湯沢店前 だんろの家 エンゼルグランディア越後湯沢駅 西口シャトルバス案内所		110円/30分 1日(5時間)上 限1,100円	24h

※レンタサイクルとシェアサイクルの違い

貸出箇所での返却(ラウンド型)を基本として比較的長い時間利用できるサービスを「レンタサイクル」、貸出場所と返却場所が異なるワンウェイ(片道)型の短時間利用を基本とするサービスを「シェアサイクル」(バイクシェアリング・コミュニティサイクル)といいます。

1 湯沢町の現状の交通環境について

■観光施設による送迎サービス

- 町内の宿泊施設・スキー場等では多くの送迎サービスが実施されており、不足する二次交通(※)を支えている状況にあります。
- 特に冬季においてはその数は多く、越後湯沢駅前の交通環境に負荷をかけている状況にあります。



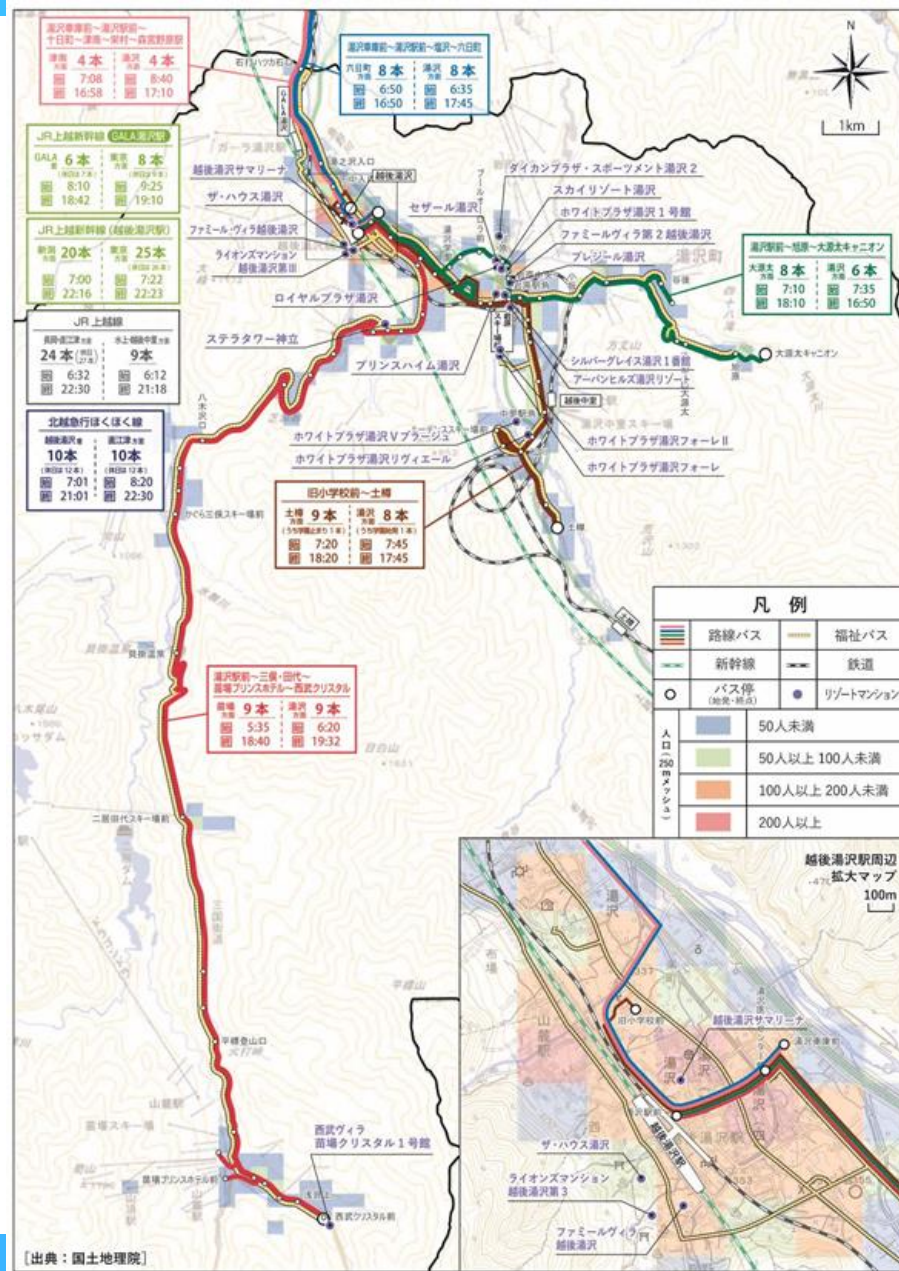
※二次交通

航空便や高速鉄道(新幹線等)、船舶で観光地や地域にいらした来訪者が、その先の各地域内の目的地などへの移動に使う交通サービスを指します。さらに宿泊先からの観光移動などを三次交通という言い方もします。

1 湯沢町の現状の交通環境について

■モビリティ環境のまとめ

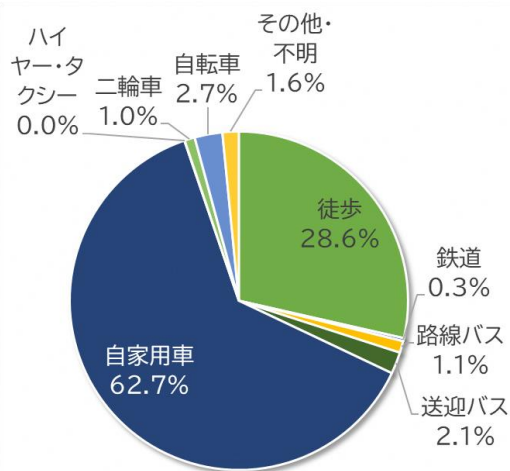
- 町内では路線バス・鉄道・タクシーなどの公共交通に加え、多様な移動サービスが存在し、町内の移動を支えています。
- 多くのサービスは移動ニーズに個別に対応して設定されており、ルートやサービス対象が重なる例も多くみられ、移動環境を持続し効率的な輸送を図るためには統合的な計画が求められます。



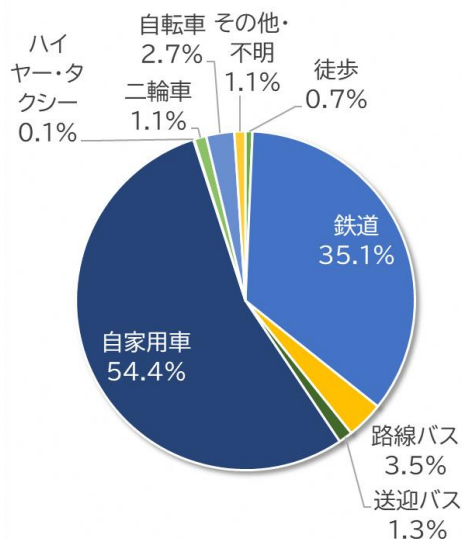
1 湯沢町の現状の交通環境について

■通勤通学の状況(平成22年国勢調査)

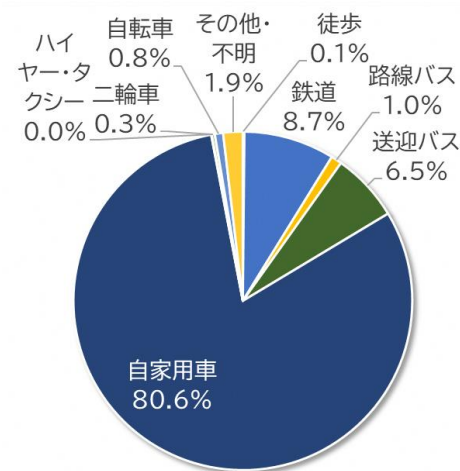
- 湯沢町内に在住・在勤される方の代表交通手段(※)を見ると、自家用車が多く利用されており、鉄道・路線バスの割合は低くなっています。
- 町内在住で町外に通勤・通学をされている方では鉄道利用が35%、町外から町内に通勤・通学されている方では鉄道利用が9%弱であるなど、町内外の移動では鉄道も利用されています。



町内在住在勤在学
(n=2,753人)



町内在住・町外在勤在学
(n=1,044人)



町外在住・町内在勤在学
(n=2,033人)

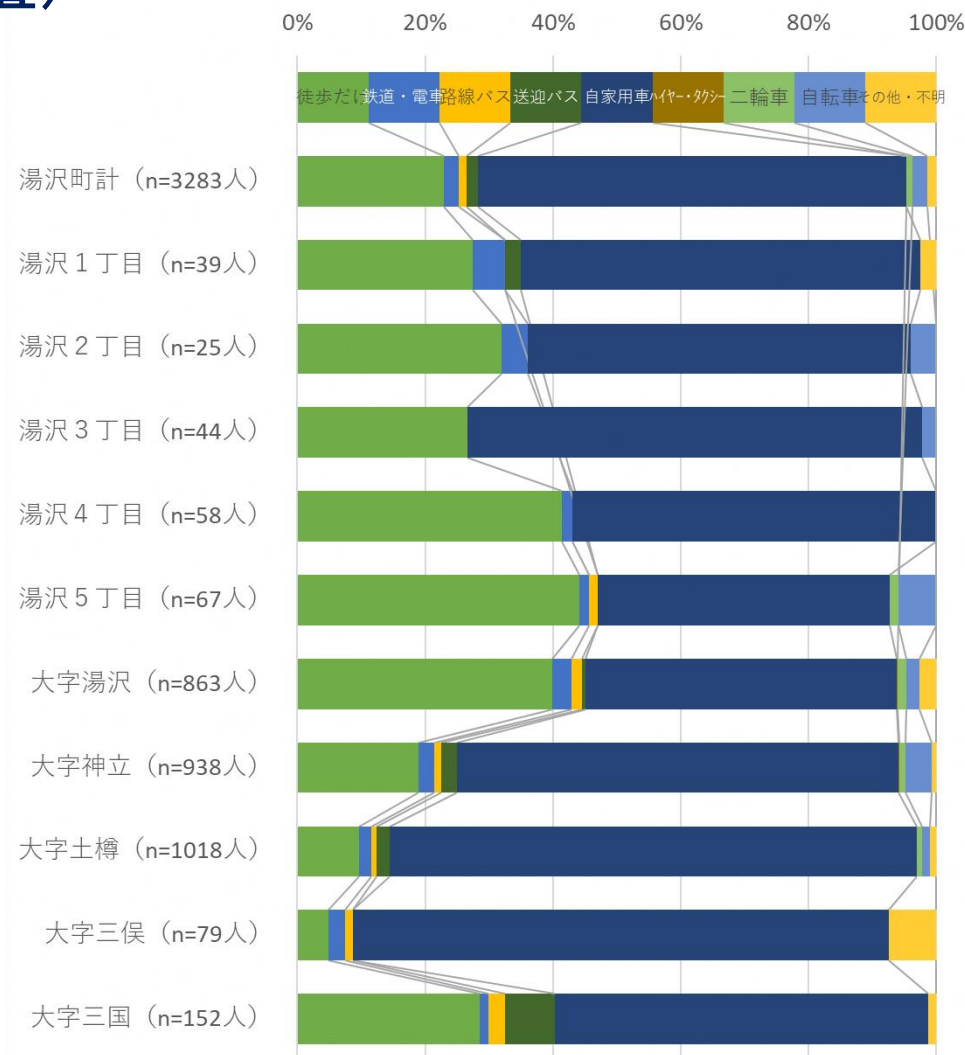
※代表交通手段

人々の移動において「最も代表的」に利用した交通手段を指します。

1 湯沢町の現状の交通環境について

■通勤通学の状況(平成22年国勢調査)

- 湯沢町内在住の方々の利用交通手段(複数回答)を地域別にみると、就業者では自家用車が多いものの越後湯沢駅周辺や神立・三国では徒歩の方も目立ちます。



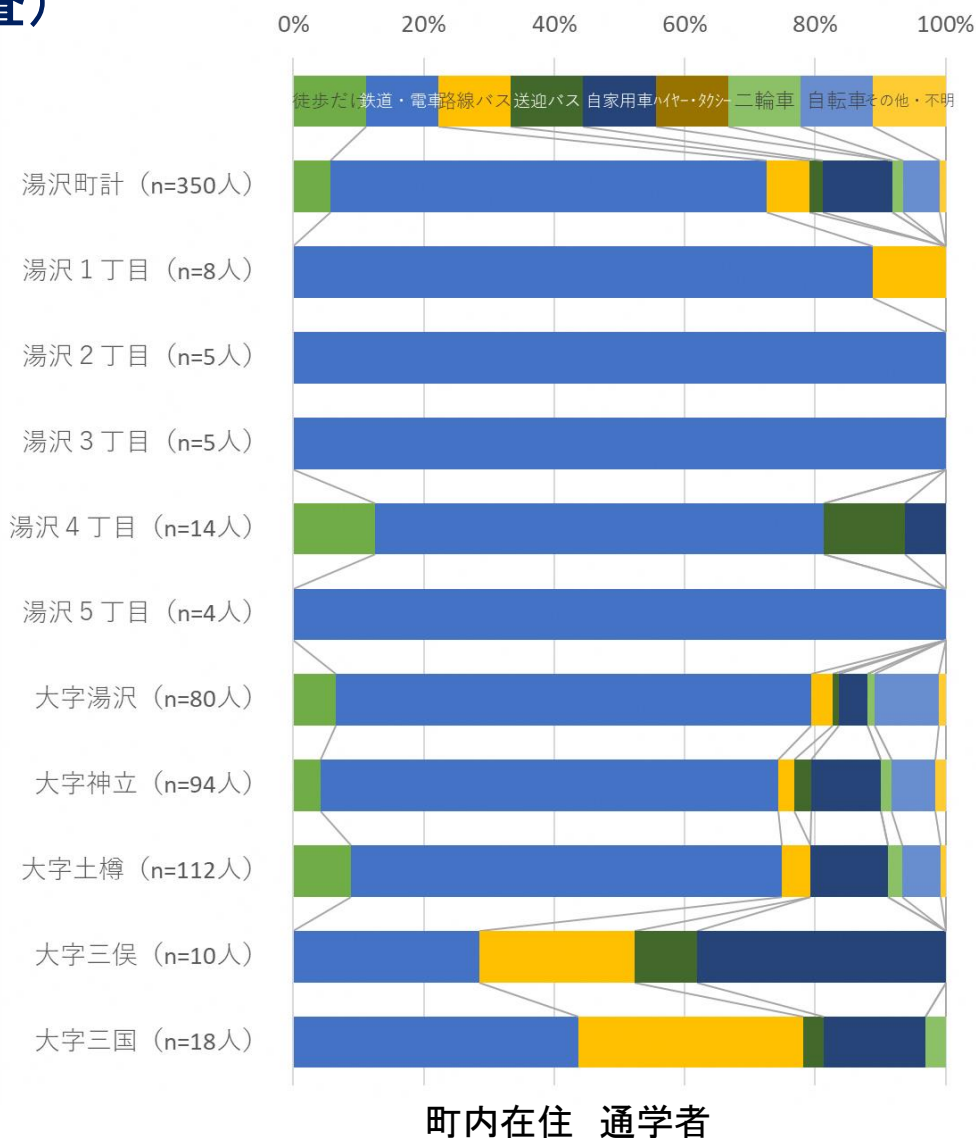
町内在住 就業者(自宅外就業)

※複数回答であるため、合計値は一致しない。

1 湯沢町の現状の交通環境について

■通勤通学の状況(平成22年国勢調査)

- 通学(15歳以上)では、鉄道の利用が圧倒的に多くなりますが、三俣や三国では路線バスの利用も見られ、路線バスと鉄道の組み合わせによる通学があることが想定されます。
- 三国や三俣、神立、土樽では自家用車も見られており、越後湯沢駅などへの自家用車での送迎があることが想定されます。
- 大字湯沢や神立・土樽など比較的駅に近い地域では自転車の利用も見られます。

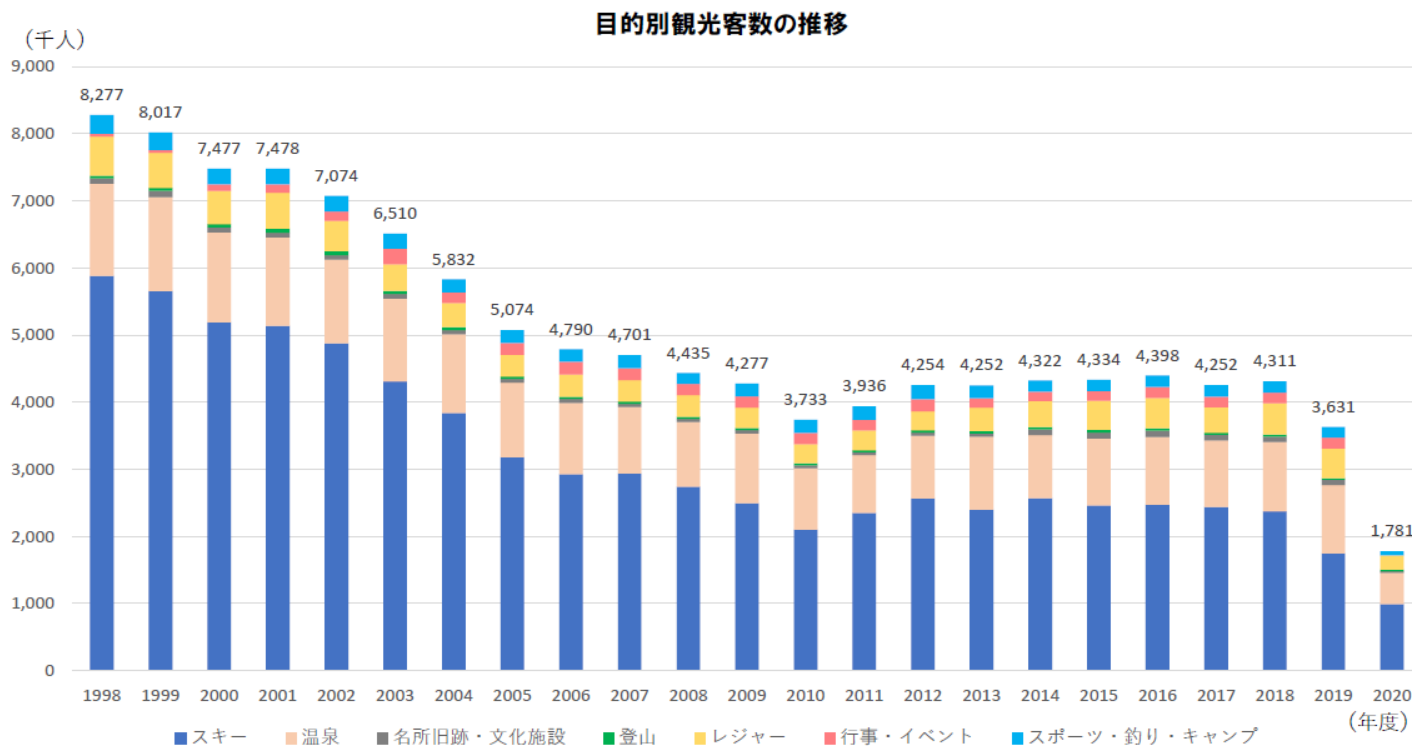


※複数回答であるため、合計値は一致しない。

1 湯沢町の現状の交通環境について

■観光来訪者の推移

- 湯沢町の観光来訪者数は1990年代後半に800万人を超えていましたが、2010年代には半分以下まで落ち込んでいます。
- 新型コロナウイルス感染症（COVID-19）の影響を受けていた2019年・2020年を除くと400万人程度となっています。

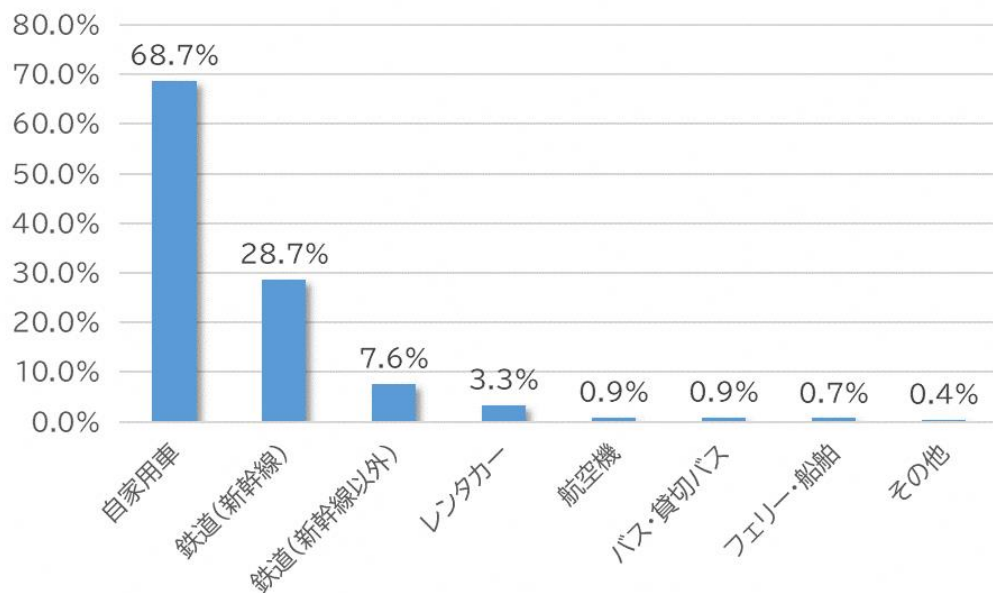


出典: 湯沢町観光統計

1 湯沢町の現状の交通環境について

■観光来訪者の交通手段

- 来訪する観光客が最も多く利用する交通手段(複数回答)は自家用車が68.7%と多くなっていますが、新幹線も3割程度みられます。
- 一方で新幹線以外の公共交通は在来線が多少みられるもののバスは0.9%と少なく、レンタカー利用が3%みられるなど「二次交通」ではあまり使われていないことが想定できます。



出典: 雪国観光圏「2020年度来訪者満足度調査」

1 湯沢町の現状の交通環境について

■湯沢版MaaS事業

- 新型コロナウイルス感染症の影響により、ライフスタイルや働き方が多様化する中において、地域住民や観光客、ビジネス利用者（ワーケーション含む）などが、車がなくても自由に移動できる環境を整備し、持続可能な暮らしやまちづくりの構築を図ることを目的として、移動環境の充実に向けた実証事業を令和3年（2021年）7月～9月に実施しました。（新潟県・湯沢町・（一社）湯沢町観光まちづくり機構による「湯沢版MaaS推進協議会により実施」）
- この取り組みは全国でも先進的な取り組み体制によるものとして注目されています。

※MaaS

MaaS（マース：Mobility as a Service）とは、地域住民や旅行者一人一人のトリップ単位での移動ニーズに対応して、複数の公共交通やそれ以外の移動サービスを最適に組み合わせて検索・予約・決済等を一括で行うサービスです。観光や医療等の目的地における交通以外のサービス等との連携により、移動の利便性向上や地域の課題解決にも資する重要な手段となるものです。

1 湯沢町の現状の交通環境について

■湯沢版MaaS事業

【二次交通利便性拡大を図るための交通サービス拡充】

■シャトルバスの運行

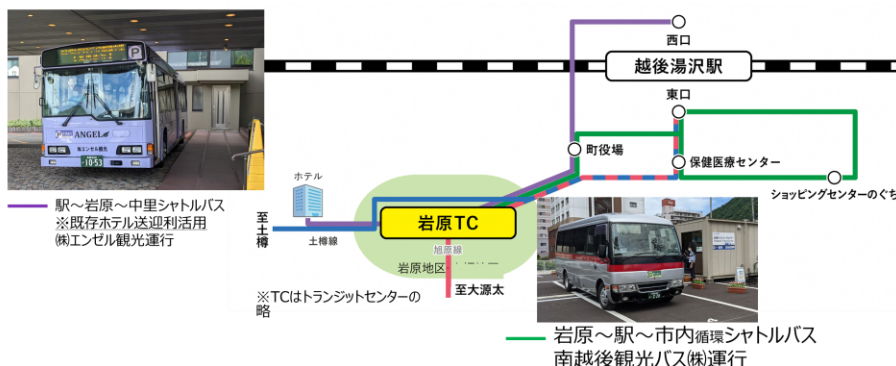
①湯沢～市街地循環～岩原シャトル(21条)

②湯沢～岩原～中里シャトル(21条)(既存のホテル送迎バスのリソースを活用)

③一括定額タクシー(一般乗用)

このほか、岩原地区を通過する既存路線バス2路線についてもサービスに組み込む

【事業概要図】



■サブスクリプションでのバスチケット販売・ホテル宿泊客へのバスチケット特典

P パープルライン(エンゼル観光(株)ホテル送迎バス)

G グリーンライン(南越後観光(株)が運行)

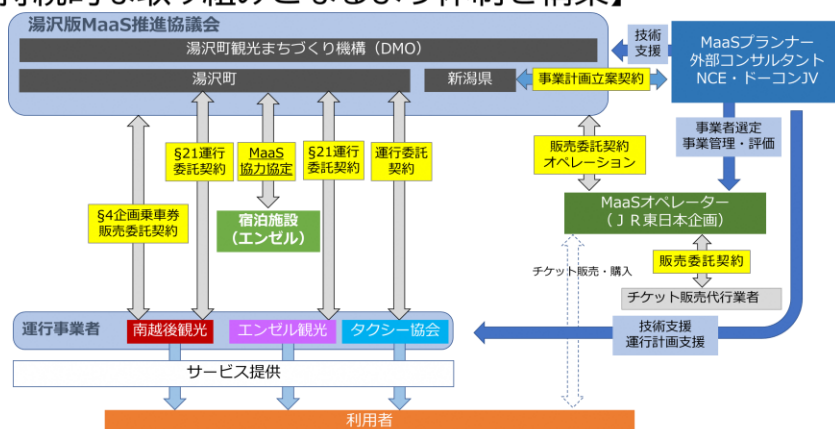
既存路線 南越後観光(株)・旭原(大源太)線(路線バス)



■乗換拠点(モビリティハブ)となる「トランジットセンター」の整備と同地での情報提供



【持続的な取り組みとなるよう体制を構築】



当初から政策統合を意図して県・町・DMOからなる推進協議会が各バス路線等のバス停位置・ダイヤ・情報提供やサービスブランディング等について主導。



ーロゴ、路線名・カラーをすべての媒体で統一ー



1 湯沢町の現状の交通環境について

■雪国魚沼Golden Cycle Route

- 「雪国魚沼Golden Cycle Route(ゴールデンサイクルルート)」は、湯沢町、南魚沼市、魚沼市を結ぶ全長約185キロの広域サイクリングルートです。
- 本ルートは、令和3年8月24日に、湯沢町、南魚沼市、魚沼市、国、県、民間団体が構成される「湯沢町・南魚沼市・魚沼市連携自転車活用推進協議会」において、新潟県で初となる、サイクルツーリズムの推進モデルルートに設定されました。
- 今後は、ナショナルサイクルルート(※)の指定を目指し、サイクリストが安全で快適にサイクリングを楽しめる走行環境及び受入環境整備に取り組んでいきます。

※ナショナルサイクルルート

我が国を代表するサイクルルートとして国が指定するルートで、現在6ルートが指定されています。



1 湯沢町の現状の交通環境について

■ 現状の交通環境に関するまとめ

- 湯沢町外への通勤通学的手段に鉄道が使われ、観光来訪者でも新幹線の利用が多くみられるなど、公共交通の利用者は少なからず存在しています。
- 一方で町内移動や駅まで(から)の足(いわゆる二次交通)ではバスは一部利用されているもののその割合は少なく、自家用車に多くを依存しています。
- 送迎サービスや様々な移動サービスは移動ニーズに個別に対応して設定されており、ルートやサービス対象が重なる例も多くみられ、移動環境を持続し効率的な輸送を図るためには統合的な計画が求められます。



- 昨今の急激な円安や原油価格高騰など、自家用車や送迎サービスを含む移動環境の持続的な維持が大きな課題となってくることが想定されます。
- 湯沢版MaaS事業や、雪国魚沼Golden Cycle Route(ゴールデンサイクルルート)など、新たなモビリティに関連する動きが発現しています。
- これらの観点を念頭に、地域公共交通計画を立案していくことが必要となります。

2 地域公共交通計画策定に向けた考え方について

2 地域公共交通計画策定に向けた考え方について

■「地域公共交通計画」の立案背景

- 湯沢町における「地域公共交通計画」の立案にあたっては、観光地である立地特性を踏まえて、町民に加え、観光客等を含めた多様なモビリティ・移動ニーズを支える計画とする必要があります。
- 町内では宿泊施設やスキー場の送迎バス・送迎車が存在。また、シェアモビリティ・シェアサイクルなど多様なサービスの導入が進むほか、原付等二輪車、自転車の移動に関する課題も懸念されるところであり、公共交通に加え、町内の移動全般をフォローする計画とすることが必要と考えられます。

■「地域公共交通計画」の方針

- 地域公共交通を構成する「鉄道・路線バス」に加え、宿泊施設・スキー場等の送迎バス、シェアサイクルなどのシェアモビリティ、自転車、自家用車をも包含した計画とすることが考えられます。
- ⇒ 地域公共交通計画に加え、自転車・歩行者を含めた計画として立案するものとして、地域公共交通計画については地域公共交通活性化再生法に示す項目を全て満たすことを前提に、別紙の内容で立案を進めることが考えられます。

2 地域公共交通計画策定に向けた考え方について

■「地域公共交通計画」の考え方

- 地域公共交通計画を実行性のあるものとするため、また住民意見の取り込み、観光来訪者が多い地域性に配慮した取り組みの実施等を担保することが必要です。
- 湯沢町においては公共交通のみを見直すのではなく、「移動」全般の環境整備が不可欠であることから、理念として移動がどうあるべきか（「あるべき姿」）を示し、その上で取りうる施策を展開していくことを提案します。
- そこで、本計画は移動環境を整備するものとして、「地域公共交通計画」を以下の考え方で策定します。

「湯沢町地域移動環境計画（モビリティプラン） 2023－2028」

- －湯沢町地域公共交通計画
- －湯沢町自転車活用推進計画
- －湯沢町歩行者マスタープラン
- －湯沢町都市・地域交通戦略

※各計画を構成するパートは各法定計画に準拠したものとします。

2 地域公共交通計画策定に向けた考え方について

■ 目標設定の考え方

理念的な全体目標と町民に対し判りやすい目標を設定するため、以下の理念を目標として提示します。

● 全体目標(理念)

町民や来訪者の高い「QOL」・「幸福度」を実現するための移動環境の整備・向上

● サービス水準目標

- 具体的なサービス水準を前提に示し、その上で達成状況を評価できる目標を設定します。
- 町内を「湯沢町立地適正化計画」による区域及び観光施設の状況から「4つのエリア」に区分し、それぞれに必要なサービス水準を設定します。

2 地域公共交通計画策定に向けた考え方について

● サービス水準目標

表 サービスレベルイメージ(案)

エリア	想定する供給サービス水準		エリアイメージ	考え方
	地域輸送サービス	地域モビリティ空間		
1	・<u>120分に1回、徒歩300m以内</u>で定時定路線の移動手段が利用可能 ・タクシーのほか、当日予約によるデマンドサービス等の利用が可能 上記いずれかにより移動環境が提供される	季節を通じ安定した歩行環境が鉄道駅・バス停までの移動ルートで確保されている	その他町内	低密度の集落がある地域
2	(以下の両方をクリア) ・<u>60分に1回、徒歩300m以内</u>で定時定路線の移動手段が利用可能 ・タクシーのほか、当日予約によるデマンドサービス等の利用が可能	季節を通じ安定した歩行環境が鉄道駅・バス停までの移動ルートで確保されている 概ね1km以内で自転車通行空間(自転車ネットワーク路線)にアクセスできる	都市計画区域内	地域内における平均的なサービスを提供するエリア
3	(以下の3点をクリア) ・<u>30～60分に1回、徒歩300m以内</u>で定時定路線の移動手段が利用できる。 ・タクシーのほか、当日予約によるデマンドサービス等の利用が可能 ・レンタカー・シェアモビリティなどの移動手段に<u>徒歩1000m以内</u>でアクセスできる。 (以下は推奨評価項目) 夕方・夜間にサービスが確保されていること	季節を通じ安定した歩行環境が確保され、鉄道駅・バス停・主な商業施設・公共施設までの移動ルートが確保されている 概ね0.5km以内で自転車通行空間(自転車ネットワーク路線)にアクセスできる	立地適正化計画居住誘導地区 観光集積地区 ※岩原、中里、苗場、三俣、神立のスキー場周辺の宿泊施設集積地区など	高密度の住宅、あるいは観光施設・宿泊施設リゾートマンションが立地するエリア
4	(以下の3点をクリア) ・<u>30分に1回、徒歩150m以内</u>で定時定路線の移動手段が利用できる ・タクシーのほか、当日予約によるデマンドサービス等の利用が可能 ・レンタカー・シェアモビリティなどの移動手段に<u>徒歩500m以内</u>でアクセスできる。	季節を通じ安定した歩行環境が確保され、鉄道駅・バス停・主な商業施設・公共施設までの移動ルートが確保されている 概ね0.5km以内で自転車通行空間(自転車ネットワーク路線)にアクセスできる	湯沢町中心部	一定以上の集積が見られる地域

2 地域公共交通計画策定に向けた考え方について

■ 今後の進め方

- 目標設定とそこから派生する施策(プロジェクト)の設定を進めます。
- エリアごとのサービス水準に対する町民の意見、事業者や観光施設等の意見を把握できるアンケート、ワークショップ等を実施します。
- 現在の移動実態を把握するアンケート調査を今夏～秋に実施します
- 多様なモビリティ(移動)の一元的な計画策定や、サービス水準設定を行う計画立案手法はこれまで国内ではほとんど先例がないものであることから、技術的な検証を実施します。



第3回地域公共交通会議にて経過を報告いたします。

3 実態アンケート調査について

3 実態アンケート調査について

- 町民・事業者等を対象とした移動実態に関するアンケート調査を実施します
- 町民に対しては併せて移動環境に関するニーズなどを把握するための「SP調査」(※)をアンケート内で実施し、町民の移動に関する選好を把握しサービスレベルや交通計画全般の基礎資料とします。
※SP調査:アンケート調査において、回答者の選好をたずねることで評価する表明選好法
- アンケート・ヒヤリング等は今夏～秋を目途に実施します。

3 実態アンケート調査について

■アンケート実施内容(案)

調査対象		調査目的	調査方法	
対象	分類		アンケート	ヒヤリング
町民	戸建て住宅居住者	・居住者の移動に対する困りごとや満足度を明らかにし課題整理に活用する	○ ①	
	マンション居住者	・移住者が多く、独自のシャトルバスがあるマンションも存在し、戸建て住宅居住者とは異なると想定される移動に対する困りごとや満足度を明らかにし課題整理に活用する		
	学生(中3～高3)がいる世帯	・町内に高校がなく、町外への通学が必須であり、ほかの世帯とは異なる移動に対する困りごとや満足度を明らかにし課題整理に活用する		
	移住者	・車が無いなど元々の居住者とは異なると想定される移動に対する困りごとや満足度を明らかにし課題整理に活用する		
	観光客	・町内観光やスキーで訪れる観光客の移動に対する困りごとや満足度を過去の調査から明らかにし、課題整理に活用する	既存の調査を活用する	
観光事業者	宿泊事業者	・観光客の宿泊施設への移動や、送迎バスを運行している場合その運行に対する困りごとを明らかにし課題整理に活用する	○ ②	※必要に応じて実施
	スキー場	・観光客のスキー場への移動や、送迎バスを運行している場合その運行に対する困りごとやを明らかにし課題整理に活用する	○ ③	※必要に応じて実施
商業事業者	物販 飲食店	・利用者の店舗への移動に対する困りごとを明らかにし課題整理に活用する	○ ④	※必要に応じて実施
交通事業者	鉄道	・現在の運行や夏期と冬期の困りごとを明らかにし課題整理に活用する ・各交通事業者が行っている対策や、他事業者との連携意向も踏まえ、湯沢町内の移動サービスの改善案検討に活用する		○ ⑤
	バス			
	タクシー			

3 実態アンケート調査について

■アンケート実施内容(案)

①住民向けアンケート

調査項目	目的	質問小項目
移動目的毎の満足度と困りごと	・現在の湯沢町内の移動実態の把握 ・移動満足度の把握し、湯沢町の移動の課題整理に活用する ・現状の移動に対する改善要望を把握し、湯沢町の移動の課題整理に活用する	移動目的
		移動の詳細
		満足度
		改善要望
サービス水準に対する意向・意識・感度の分析(SP調査)	・移動に対するサービス水準による利用意向、傾向の把握	サービスの利用意向
個人属性	・個人属性を把握し、属性別の傾向を見て課題整理に活用する	個人属性

②③観光事業者・スキー場向けアンケート

調査項目	目的	質問小項目
宿泊施設またはスキー場の基本情報	・各施設の規模や利用者数、利用者のアクセス手段を把握する	施設基本情報
各施設までの利用者アクセスに関する困りごと	・各施設が感じている利用者のアクセスに関する困りごとを把握し、課題整理に活用する	利用者のアクセスに関する困りごと
自社運行送迎バスの有無と、運行実態、継続意向の把握	・自社で運行(委託)する送迎バスを運行している施設を把握し、その運行実態や費用、今後の継続意向を明らかにし、課題整理に活用する	自社運行送迎バス等の有無
		自社運行送迎バスについて 夏期(4~11月)
		自社運行送迎バスについて 冬期(12~3月)

3 実態アンケート調査について

■アンケート実施内容(案)

④商業事業者(物販・飲食店)向けヒヤリング

調査項目	目的	質問小項目
商業事業者の基本情報把握	・各施設の駐車可能台数や利用者のアクセス手段を把握する	施設基本情報
各施設までの利用者アクセスに関する困りごと	・各施設が感じている利用者のアクセスに関する困りごとを把握し、課題整理に活用する	利用者のアクセスに関する困りごと

⑤交通事業者(鉄道・バス・タクシー)向けヒヤリング

調査項目	目的
各交通事業者の困りごと	・各交通事業者が感じている困りごとを把握し、課題整理に活用する ※夏期、冬期、イベント時(フジロックなど)でそれぞれ聞く ・運行だけではなく、情報提供や越後湯沢駅の案内等を含め把握する。
改善意向	・各交通事業者が行っている対策や、他事業者との連携意向も踏まえ、湯沢町内の移動サービスの改善案検討に活用する